

〈日常生活からの冒険〉

ジャーナリスト
松本 侑壬子

今月は久々の女性監督作品。ユーモアもひねりも効いた、等身大(?)の現代女性映画です。東京の会社で働く節子(寺島)は四三歳。会社では必要最低限の会話しかせず、親しい友だちもいない。ひとり暮らしのマンションの部屋はモノであふれて足の踏み場もない

—こんな日常からの大変身は、ある日、突然始まった。

姪の美花(忽那)の身代わりで訪れた怪しげな雑居ビルにある英会話教室。いやに明るいアメリカ人講師ジョン(ハートネット)に大きなハグで迎えられ、金髪のウィッグと「ルーシー」という名前を与えられ、言われるままに「ハーイー!マイネーム・イズ・ルーシー」と。振る舞いも「アメリカ人のようにリラックスしてクレイジーに」と促され、もうひとりのおじさん受講生小森(役所)と何度もハイタッチやハグを繰り返すうちに、あら不思議!節子の仏

頂面はいつしか笑顔に変わり、親身になって優しく励ましてくれるジョンが恋人のように思えてくる…。

マンガチックながら、またいかにもありそうで、思わず笑ってしまうくらい導入部。話はさらに展開、ジョンが突然教室を辞めて美花と帰国、節子はジョンを追ってカリフォルニアへ。ジョンには実は別居中の妻子がいたり、節子と同行した姉・綾子(南)とは昔恋敵だったことなどの新旧事情が明るみに。だが、節子は今は突撃あるのみ。ジョンに向かって体当たり。東京のオフィスの節子とは見まがうばかりの恋する女ぶりで、ジョンと同じタトゥーまで入れているのだ。節子を愛しているわけではないジョンは困惑しきって「ユーアー・クレイジー!」と去ってゆく。カリフォルニアでの暮らしぶりもいきいきと違和感がないのは、高校時代から大学院まで平柳監督の豊富なアメ

リカ体験の強みか。せまい小さな自分の穴を出て、まずやってみることで自己解放する片隅の女性の姿を自然体で描いて嫌味がない。東京とカリフォルニアの落差は、現実よりもイメージ(思い込み)が大きく、思い切って行動することで自分の殻を破る楽しさを知る節子。的確で鋭い人間観察から巧まざるユーモアが生まれる。

ところで、休暇を終えて職場に戻った節子を待っていたのは…。異動勧告を蹴って息苦しい会社を飛び出した節子の部屋のチャイムが鳴る。

この作品は、平柳監督のNY大学院映画学科(ティツシユ・スクール)の修了作品として制作した二二分の同名の短編映画(二〇一四、節子役は桃井かおり)に基づいている。カンヌ国際映画祭をはじめ、サンダンス、トロントなど三五以上の国際映画祭で受賞、一躍世界の注目を浴びた。同作の脚本にさらに手を加えて練り上げ長編映画として膨らませた本作は、脚本段階でサンダンス・インスティテュート/NHKの脚本賞を得て、米実力派プロデューサーらを迎えて改めて映画化された。若く才能・環境に恵まれた新しい世代の日本人女性監督がまたひとり誕生した。彼女の地球規模の活躍が楽しみだ。



『オー・ルーシー!』

日米合作映画(95分)

監督: 平柳敦子

出演: 寺島しのぶ、南果歩、忽那汐里、役所広司、
ジョシュ・ハートネットほか

4月28日よりユーロスペース、テアトル新宿ほか
全国順次ロードショー

© Oh Lucy, LLC